

小江戸・川越の蔵造りの町並みを歩く

日時:2014年4月23日(水) 天候:晴れ 14000歩 約10km

集合:JR 横浜駅10番線ホーム (9時42分発 湘南新宿ライン特快高崎行き最後尾車両に乗車)

※川越駅直行の場合は改札口に11時

コース:川越駅→喜多院→五百羅漢→川越城本丸御殿→蔵造りの町並み(自由散策=時の鐘・菓子屋横丁等)
→連馨寺→川越駅

参加者:リーダー斎藤優子さん 計24名(一般1名)

過去にカメラを持って何回か訪れたことがある川越、この時期に行くのは初めてなので参加しました。朝から青空の広がる絶好の行楽日和で、メインストリートは平日にも拘わらず多くの観光客で賑わっています。さすがに今回は女性の参加者が多く、皆さんのお目当はやはりお菓子横丁等でのお買い物。お弁当を食べてせっかく軽くなったはずのバッグが、帰りには逆に重たくなったようでした。

<フォトレポート 小島>



湘南新宿ラインで。“大人の遠足”の始まりです。



池袋で東上線に乗り換え川越駅に到着しました。



川越駅改札前にて。女性が多く男性陣は影が薄い？



ここで直行組と合流。全員揃いました。

※横浜方面から川越に行くには幾つかのルートがあります。その1:湘南新宿ラインで池袋→東武東上線で川越駅。その2:同じく新宿ラインで新宿駅→山手線で高田馬場→本川越駅。その3:東横線一副都心線直通で川越駅。なお川越駅と本川越駅は500mほど離れていますが、蔵の町並み散策には本川越駅の方が近いです。



まず川越散策マップを貰います。



八幡神社に入り……



ここでリーダーによるストレッチ。



引率の先生のように……隣は生徒？



皆さんにはもう関係ない(?)縁結びの木と可愛い道祖神。



お弁当持参でない人はここで調達。



喜多院に向かいます。



橋を渡って喜多院に入ります。



その名も「どろぼうばし」



悪人が前非を悔い善人となった謂れが。



喜多院慈恵堂前での集合写真。風薫る爽やかな天気皆さんの顔もほころびます。



お参りを済ませ、さてご利益は・・・



木陰で暫し小休止です。



昼食が待ち遠しい？



客殿・書院に入ります。



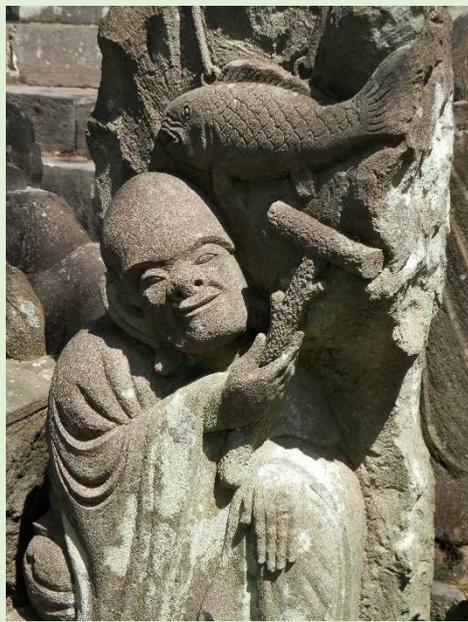
春日局の化粧部屋。4室も使用。



庭の新緑が綺麗です。



多宝塔。2度ほど移築されています。



鯛(?)を持った五百羅漢の一つ。



持っているのは何？



「ちょっと頼みがあるんだが」・・・「何だい？」



「まあ一杯！」・・・「これはどうも・・・」



平成の羅漢たち！ 自分に似た顔見つかりましたか？



鼻メガネをかけた羅漢。

※五百羅漢やダルマ市で知られるここ喜多院は、830年に慈覚大師が開いたのが始まりと言われる。天海僧正が住職となってから喜多院と呼ばれようになったが、1636年に大火でほとんどを焼失。三代将軍家光が、江戸城内・紅葉山から客殿・書院等を移築したが、これらはその後の江戸の大火から免れた唯一の遺構として残されることになった。家光誕生の間や春日局化粧の間と伝えられる部屋を見ることが出来る。(資料より)



川越城中ノ門跡。



唯一残る堀跡。左側は人工的に見えますが...



川越市役所前で。心はずでにお菓子横丁に。



ここはもと高札場。



粋なうなぎ屋もあったもの...



お菓子横丁の路地。平日で空いています。



と思ったら...砂糖に群がるアリのように！(失礼)





川越の象徴「時の鐘」です。今は自動で鐘を打ちます。



3時の鐘を待つものの...



ついおしゃべりに花が咲いて...



「いも恋」結構旨いですよ。(宣伝料はもらっていません！)



レトロなバスが走っていました。



買い物も終わり駅に向かいます。



が・・・川越には“関所”が多すぎます！



大向こうから手招きされて、吸い込まれました。まだ買う？



中心部の道路は電柱がないのでスッキリしています。



最後は連馨寺。可愛い幼児にお孫さんを思い出して・・・

※今日は天候に恵まれ、新緑と季節の花々を愛でながらの爽やかウォーキングとなりました。

ここ川越は、江戸時代には川越街道や新河岸川等で交通・商業の中心地として栄えた所です。特に新河岸川は江戸とを結ぶ重要な交通手段で、人や物資を運ぶ最速ルートとなっていて「江戸の大手は小田原城、江戸の搦め手は川越城」とも言われ、江戸にとっての北の砦として重視されたそうです。

今もサツマイモ・うなぎ・駄菓子などが名産となっていますが、江戸時代にはこれらを使った商品が江戸で売られ、江戸っ子たちにも好まれたようです。改めて川越を歩いてみると、表通りから一步入った路地などに昔の雰囲気が残っている一方で、駅前から続く商店街は近代的で明るい雰囲気が感じられ、若者たちが闊歩する街並みを形作っています。かつての城下町の川越は、これからどの様な発展を遂げるのか興味を惹かれます。